

令和5年度 創竹会総会報告

議事

- (1) 令和4年度事業報告、同決算報告、同監査報告
- (2) 令和5年度「創竹会」役員選出
- (3) 令和5年度事業計画案、同予算案



令和5年度 役員

会長	古谷顯史郎	中原由佳里
副会長	宇田川耀平	丸山 正江
	武居 哲洋	雲雀寿美子
	飯田 道郎	山崎 玲依
	阿部 徹	今関真悠子
	大竹新太郎	林 靖子
	曾根 章生	川村 まき
	白仁田洋介	財津 愛
	高畠 裕	佐別當史子
顧問	二瓶 好正	竹内 千晶
	三嶋 明	馬場 友美
	村上 一路	山崎 恵美
	荒井 正剛	星 裕樹
	勝岡 幸雄	皆川 尚子
理事	阿部 芳枝	加藤 太智
	奥津 浩美	神沼 厚史



創竹会会長
古谷顯史郎

会員の皆様へ

会員の皆様には、平素より教育後援会「創竹会」の活動にご理解とご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年度は、皆様のご協力とご支援により創立75周年記念事業として、体育館の床が五輪仕様の最高グレードに改修され、音響も改善する事が出来ました。3月14日に開催された記念式典は、感染症の影響を考慮し小規模になりましたが、開会時と閉会時に、旧竹早中学、旧追分中学、現中学校の校歌が流れ75年の歴史を感じる事が出来ました。演奏会では、卒業生のピアノとコントラバスの素晴らしい演奏が有り、出席した

3年生は、卒業生の多様性を肌で感じた事と思います。

創竹会は、昨年度も感染症対策、学校生活の必需品等、例年通り補助致しました。今年度は、プールの塗装改善他、生徒の骨折事故等大きな事故に繋がる様な事を無くす為にも下校庭の修繕が、喫緊の課題となっております。小学校とも連携して改修工事を速やかに出来る様検討し生徒の安全を計りたいと考えております。

また、文科省からの予算で行ってきた「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」は、大学、企業との連携が進み旧数学教室は「SUGOI 部屋」として教育機器が整備され、色々な教科で活用されています。旧PCルームは、生徒のアイデアを企業のデザイナーが設計し、内装は生徒と先生方のDIYで多目的ルーム「Dルーム」となりました。これらの教室は、生徒、先生だけでなく公開研究会で多くの参加者からも高い評価を得た様ですが、文科省の予算打ち切りとなりました。この研究は、竹早地区の特色を出す為にも今後も継続させる必要が有ります。そこで、この研究を80周年記念事業として取り組む事を前提に「特別寄付」を継続させていただき所存です。

結びになりますが、会員の皆様のご健勝と創竹会の活性化、並びに学校の更なる発展と進化を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

躍動する竹中生へのエールとして



副校長
森 顕子

皆様、竹早中学校の教育活動に日頃より多大なるご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。本年三月には、床と音響設備の改修された体育館で、創立75周年記念式典及び卒業生による演奏会を行いました。学長、古谷会長、PTA会長からのご祝辞と、生徒代表の力強い挨拶の言葉が凛とした空気の中で会場に浸透していきました。また、演奏会はプロとして活躍されている演奏家(コントラバス・ピアノ)によるもので、母校への大きな愛と後輩へのエールを演奏と言葉を通して在校生一人一人に届けられました。

今年度になって、油断はできないものの、ようやく、子どもたちの活動も広げられるようになって参りました。久しぶりなもの、まず一つ。5月に全校2泊3日の校外学習を実施致しました。以前同様、

1年が菅平で自然体験、2年が白馬で農業体験、3年が吉野から奈良を中心として京都までの修学旅行でした。行事が子どもを育てることが実感されました。二つ目は、水泳復活です。プールの修復が6月に間に合いましたので。授業に部活動にきれいな水しぶきが輝いています。先述した体育館も、プールも、創竹会のご尽力によるものです。深く感謝申し上げます。

さらに、6月の授業参観、7月の学校説明会。また、保護者の皆様に自由に参観いただける9月の運動会、一般来校者にも広く竹中生の活躍を披露する11月の文化研究発表会、全国から研究者が訪れる1月の公開研究会と、子どもたちの生き生きとした姿をご覧いただける1年としたいと考えています。どうぞ、今後ともよろしくお願い申し上げます。



お知らせ 「創竹庵」文化研究発表会と同時開店

11月2日(木)

11月3日(金・祝)

残念ながら飲食はできませんが、休憩スペースをご用意いたします。

竹早グッズ(書籍、シャーペン、タオルなど)の販売も予定しておりますので、ぜひ、お立ち寄りください。今後、予定に変更もございますので、詳細はホームページをご確認ください。
<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~takechu/>

編集後記

創竹会活動への理解を深めていただくことを目的に年1回「創竹会だより」を発行しております。今年度は、コロナウィルス感染症も収束をみせ、多くの学校行事がもどってまいりました。子どもたちの笑顔は、こんなにすばらしいものだったのかとあらためて、気づかされる毎日です。この笑顔のために、役員一同、竹早中学校の教育環境向上に邁進してまいります。

令和9年の竹早中学校創立80周年に向けて、会員の皆さまにおかれましては、引き続きのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

次回「創竹会だより」は、令和7年(2025年)5月発送を予定しております。



学校長
馬場 哲生

本格再始動した学校生活の中で

本年4月より竹早中学校校長に赴任いたしました馬場哲生と申します。専門は英語教育です。創竹会の皆様には、日頃より本校に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。竹早中学校では近年、設備の修繕・改修が必要な箇所が増えてきておりますが、創竹会の皆様からご支援いただき、体育館の床と音響設備の改修ならびにプールの修繕が完了し、体育の授業や部活動で生徒たちが伸び伸びと活動できるようになりました。また、創竹会からいただく寄付金は、部活動指導員などの人件費の補填、授業で使用する教具や機材、学校行事に関わる費用、トイレトペーパーなどの消耗品

に至るまで、学校運営の多岐にわたり使わせていただいております。改めてご支援に感謝申し上げます。

本校では、2020年春から3年間コロナ禍の中で封印されていた行事が今年度は全面的に復活できており、学校本来の姿、生徒本来の活動の姿が蘇ってきました。5月に全学年で一斉に実施した2泊3日の校外学習では、私は3年生の修学旅行に同行いたしましたが、生徒の皆さんは、歴史ある地域で数々の貴重な文化遺産に触れながら、深い体験的な学びを実現できていたと思います。宿泊を伴う学校行事は生徒たちにとっては初めての機会でしたが、学校と社会のルールを守りながら主体的かつ紳士的に行動しており、竹中生としての底力を見せてくれました。今後、9月の運動会や11月の文化研究発表会でも、竹中生はその本領を発揮してくれるものと期待しています。

9月からは教育実習が始まります。私はこれまで大学から実習生を送り出す立場にいましたが、今年度からは実習生を送り出す側と受け入れる側の両方の立場で実習に関わることとなりました。教育実習が、生徒と実習生の双方にとってかけがえのない学びの機会となるように努めてまいります。

創竹会の皆様には、引き続き本校へのご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト本格化！

「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」は、企業を含めた多様な団体、地域をまたいだ複数の教育委員会、大学の研究者、幼小中それぞれの教員が、一つのチームとして「学び」、「授業」、「環境」を包括した「学校」という社会的なシステムを変革しようとする事業です。

竹早中学校では、この事業の一環としてSUGOI (Smart Unlimited Growing Open Innovation) 部屋とDルームを整備しました。10年後の学校のモデルを3年後に実現することを目指し、今後も機能の充実に図っていく予定です。

【SUGOI部屋】

1階にあるSUGOI部屋は、壁一面の大型スクリーンや広めの教室の後ろまで音声聞こえるスピーカー、キャスター付きの机と椅子などが整備され、理科や国語、英語など多くの教科でグループワークや相互発表が盛んに行われています。大スクリーンでコンテンツを分割して映したり、動画的な要素を入れたり、生物や建物を実寸大で見せたりすることで、授業の作りが変わり、生徒はより一層興味を寄せ、より集中できるようになっているそうです。また、先生方にとっては、授業準備の効率化にもつながっているようです。



【Dルーム】

3階にあるDルームは、角部屋の2面がガラス張りで、廊下から活動の様子が見えるようになっています。中には、スクリーン、プロジェクタ、模造紙にも印刷できる大型プリンタなどの事務機器のほか、生徒がリラックスしながらも活発なディスカッションができるよう、写真のようなたくさんの工夫がされています。



生徒がリラックスしてディスカッションできる
小さな森のようなスクリーン前
(上靴を脱いで上がるため、床に模造紙を
広げて作業することも可能)



上下に稼働する机、あえて不安定な椅子が大人気
(ディスプレイで画面共有しながら、
パーテーションにもなるホワイトボードを
併用する社会人のような姿も)

これらは、生徒や先生方がワークショップを重ねて、「未来の学校」に必要な機能は何かを描き、オフィス家具の企業の提案も取り入れながら整備されました。

SUGOI部屋やDルームでは、竹早中学校独自の「多様性の教育」に関する研究の1つで課外活動でもある「Dプロジェクト」も行われています。Dプロジェクトの「D」は、Dream・Decide・Developの3つの頭文字を取ったもので、コンセプトは「生徒の想い・願いを形にすること」です。今年度は、報連相チーム（Dプロジェクトや竹早中学校の広報）、エコ紙チーム（環境負荷がかからない紙素材の開発）、環境保護チーム（海洋汚染に端を発した学習・清掃活動）が稼働中です。今年9月からは外部の企業を招聘した講座を開講するなど、より一層学びを深めていく予定です。

今後に向けては、個々の端末による学習が進む中、学習の成果の保存（アーカイブ化）とその活用、オンラインと対面にギャップを埋める仕組みなど、アナログや対面の良さも活用しながら、デジタル化の恩恵を生徒全員が感じられるように活動を深めていく予定です。



上園 悦史 先生

幼小中の連携教育の中で、生活や学びの中に遊びがあること、子ども達の主体性を尊重することの重要性を再認識しています。生徒が学びたいことを学べる環境を自分達で作れるよう、遊び的な要素を学校の中で一緒に作っていききたいと思います。



荻野 聡 先生

生徒には楽しいと思うことを見つけ、イノベーションに取り組んでみたいという意欲を持ってもらえるようにできればと思います。今後も現場の声を大事にしながら、新しいものを載せるだけでなく、竹早中学校の新旧をつないでいきたいと思っています。

プールの改修が終了 4年ぶりに使用できるようになりました

内装が剥がれ、怪我をしやすい状況であったプール。コロナの影響もあり、2020年以後、使用できない状態が続いていました。

今年度、創竹会の寄付を活用した改修工事が終了し、体育の授業や水泳部の部活などで活用されるようになりました。

体育館屋上にある屋外型のプールのため、使用期間は限られますが、暑い日本の夏を肌で感じ、生徒には思っきり泳ぎを楽しんでもらいました。



創竹会とは

創竹会は正会員（在校生の保護者）と賛助会員（正会員資格を有しないもので本会の趣旨に賛同する個人・法人・団体）から成る教育後援会です。2004年の国立大学の法人化以降、国からの運営交付金が年々削減される中、不足分は寄付金で独自に補っています。創竹会会員の皆様から頂いた会費・寄付金は、竹早中学校の生徒のため、毎年様々な形で活用されています。

<皆様からの寄付は、以下のように活用されています。(一例)>

教科の備品・消耗品・新刊図書の購入、部活動活動費（登録料、ボール等購入費）、空調設備の設置・保守、教室校舎の充実、ICT関連設備の更新、ソフト資材の充実等

より良い教育環境の実現のために 特別寄付へのご協力をお願い

皆様からのご支援のもと、昨年度は創立75周年の記念として体育館の床・壁・音響設備が整備されました。心から御礼申し上げます。今後は創立80周年に向け、「未来の学校」の実装(教科・目的に応じた学習環境の整備)が進められる予定です。大学からの限られた予算の中、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するため、会員の皆様に特別寄付のお願いです。国立大学法人を通した竹早中学校への特別寄付は、所得税制上、寄付金控除の対象となり、東京学芸大学から寄付金領収書が発行されます。1年を通して寄付金は募集しておりますが、大学からの寄付金領収書発行手続きには時間が必要なため、領収書が必要な場合は、9月30日をもって締め切らせていただいております。来年の領収書をご希望の場合は令和6年1月1日以降にお振込みをお願いいたします。

口座番号：ゆうちょ銀行 00180-9-392665
加入者名：創竹会
通 信 欄：在籍期と生徒氏名(〇〇期 竹早太郎)
または卒業生氏名
ご依頼人：領収書に記載する方の住所、氏名

1口10,000円で1口以上、何口でも結構です。誠に勝手ながら、振込手数料はご負担ください。領収書を希望されない方は、ネットからのお振込も可能です。他行からゆうちょ銀行への振込の留意事項、口座名義をご確認ください。